

高知城周辺の歩道と藤並公園のデザイン

高知工科大学 社会システム工学科
景観デザイン研究室
1070471 秋沢 幸生

1. 背景と目的

高知市には高知を代表する歴史的文化的財として高知城があり、自然と文化豊かな土佐二十四万石の城下町として、歴史的景観資源を現在でも多く有している。高知の観光の中心でもあり、毎年多くの観光客が高知城へと足を運ぶ。しかし高知城周辺の歩道と、観光客が高知城を訪れたとき最初に観光客を迎え入れる藤並公園の整備が全くされていない。公園内は利用者も少なく寂れている状態となっている。

私たちが子供の頃は公園でのボール遊びや、走り回ったり、水遊びなどをしに公園に行くことは日常の出来事であった。しかし今は少子高齢化やパソコン・ゲーム機の普及などが原因で、公園に行く理由も目的もない人が増えたのではないだろうか。それに加え、モータリゼーションの発達により、歩くということから遠ざかっている。市街地では交通機関は発達しているが、駐車場の不便さなどといった理由で、住民は郊外の大型ショッピングセンターへと足を運ぶ。それによりまちの空洞化が進みまちが衰退していく。高知市に限らず、全国で抱えている社会問題である。

そこで今回、高知城周辺を対象に、安心・安全・快適に高知城周辺を遊歩することのできる歩道整備と、藤並公園が観光客を迎え入れるのにふさわしい、且つ周辺住民も気軽に利用することのできる場所となるように提案をする。その効果としてまちの賑わいや、美しい都市景観につながることを目標としている。

2. 現況調査

2-1 高知城の歴史

高知市の中央に、約 400 年余りの歴史を有する高知城がある。現在は廃城となり城内は一般に開放されていて、昭和 25 年文化財保護法により重要文化財となった。

2-2 高知城 (懐徳館) 利用状況

図 1 は高知城の観光客数の推移を表したグラフである。土佐二十四万石博の効果により、平成 18 年度は著しく観光客が増加したが、平成 19 年 1 月 8 日で土佐二十四万石博が終了したことにより、今後観光客数は減少していくと思われる。

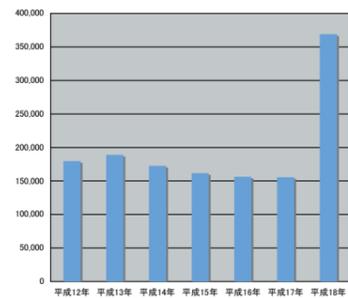


図 1 高知城 (懐徳館) 利用状況 (単位:人) 出典:高知県庁 観光振興課

2-3 高知城周辺歩道の課題

高知城周辺の歩道には次のような課題がある。



図 2 北側歩道



図 3 南側歩道



図 4 西側歩道 1



図 5 西側歩道 2

図 2: 歩道が狭くて危険であり、路上には多くの

車が駐車していて、見ている気持ちよくない。

図 3: 人通りが多い場所だが歩道が狭くて危険。

図 4: 両側に歩道がなくて歩くのに危険。

図 5: 暗くて安心して通ることができない。

2-4 高知公園駐車場の現状

図 6 は高知公園駐車場県外観光バスの駐車台数の推移を表したものである。二十四万石博の終了に伴い、今後観光バスの台数も減少していくと思われる。

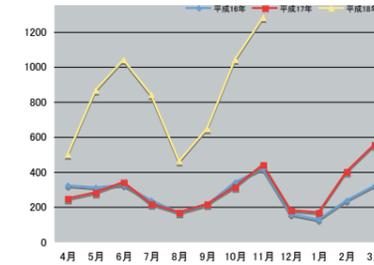


図 6 高知公園駐車場県外観光バス駐車台数の推移 (単位:台数)

出典:高知市コンベンション協会

現在、高知公園駐車場に停めることができる車の台数は、北側に観光バス 15 台、東側には一般の駐車場 36 台分のスペースがある。休日は観光客で賑わい、昼間は観光バスは満車となるので、東側の駐車場を一般車の乗り入れ禁止とすることで、さらに観光バスを 15 台駐車できるようにしている。



図 7 平日の東側駐車場



図 8 日曜日の東側駐車場



図 9 平日の北側駐車場



図 10 日曜日の北側駐車場

2-5 藤並公園の課題

藤並公園には次のような課題がある。



図 11 公園パノラマ

- ・寂れた公園内で、利用者も少ない。
- ・視界を遮る繁茂した樹木により、明るさの消えた閉ざされた空間となっている。
- ・使われていない遊具、及び建物が無駄である。
- ・観光客の動線を追手門へ誘導させる必要がある。

3. デザインの基本方針

歴史的な地区に提案をするにあたり、高知城の歴史を十分に考慮した上で計画をする。

3-1 賑わいと活気のある歩道空間をつくる

●人が安心・安全・快適に歩くことのできるように歩道を整備する。

- ・高知城周辺を一周することのできる歩道をつくり、安全に散歩できるルートを新たに作る。
- ・街灯配置などによる交通安全対策を行う。

●緑豊かな自然を活かし、景観にも配慮する。

- ・概存樹を保護する。
- ・路上駐車している車の移動する。

3-2 市街地の中の公園をつくる

今回、藤並公園に対し、公園としてではなく、広場も兼ねた一つの歩行者空間として利用することを提案する。賑やかに遊べる空間としてではないが、住民や観光客が気持ちよくこの場所を通るため、自然と歴史を感じることでこの場所に、人が集まり、憩うことで賑やかさと活気を持った空間となることを目指す。

・樹齢の高い樹木や歴史を感じる樹木を保護する。

・視界を遮っている植栽を取り除き、代わりに芝生を植える。

・使われていない遊具や建物を撤去する。

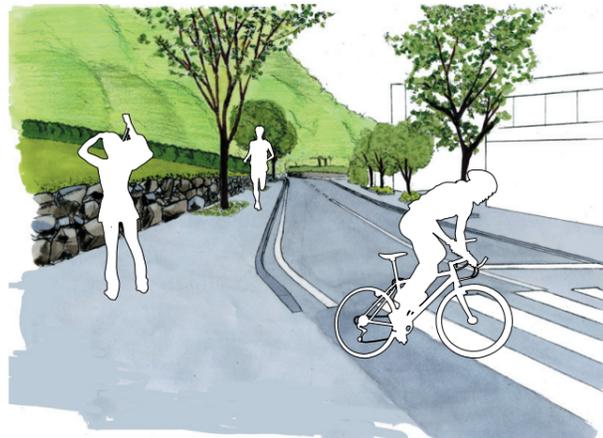
・将棋をするスペースを確保する。

・住民や観光客が気軽に憩える場所を設ける。

・高知城への玄関口として、観光客を迎え入れるのにふさわしい場所とする。

3-3 駐車場の配置を変える

高知城を観光する際、城の入り口である追手門をくぐってから観光してもらいたいが、北側駐車場に停まった観光バスの場合、観光客を追手門ではなく北側の入り口へと誘導する。今回提案する計画は、一般車の駐車場を北側へと移動させ、観光バスを東側に移す。駐車場の配置を変えることで観光客の動線を追手門の方へと誘導させる。



- 西側歩道 1 - 両側に歩道がなかった場所に新たに歩道をつくる。植栽を取り除き、斜面を少し削り石垣を設けた。樹木はそのまま利用する。



- 西側歩道 2 - 斜面を削り石垣を設け、新たな歩道をつくる。両側歩道とすることで、より安全に遊歩してもらう。



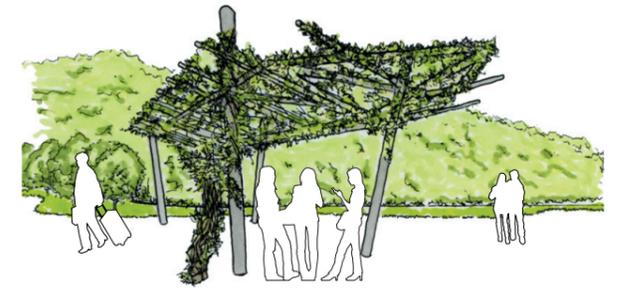
- 南側歩道 - 比較的人通りが多い場所なので、植栽スペースを歩道として利用し十分な幅員を確保する。樹木はそのまま利用する。



- 北側歩道 - 狭い歩道が片側にしかなくて歩くのに危険であったが、現在タクシーや一般車の路上の駐車場として利用されていたスペースを歩道として利用することで、より安全に歩ける。歩道とすることで駐車場のスペースがなくなってしまうが、元々この場所に停めてあった車は、公園北側の駐車場へと移動してもらう。



- 案内サイン - 公園内に多機能性を持たせた観光用の案内サインを動線上に連続的に配置し、観光客の足を止めて見てもらう。案内サインとしてだけではなく、野外アートとして学生の作品展示や、よさこいの写真展、グラフィックアートの展示などをして、公園を訪れた人を楽しませる。夜間でもサインをライトアップさせ観覧することができ、照明としての機能も持たせる。



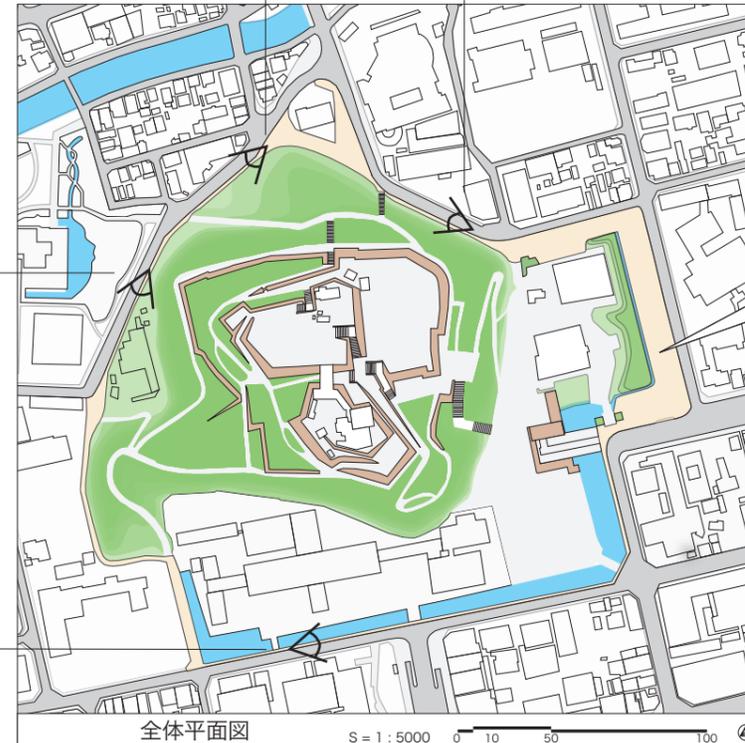
- 藤棚 - コンクリート構造で重みのあった藤棚だったが、構造材を鉄にして、見た目をすっきりさせる。この藤棚の空間を憩いの場として住民や観光客に利用してもらう。



- 広場の風景 - 今まで樹木が繁茂して視界を遮っていたが、利用しやすい空間となるように、オープンな空間とした。住民の生活路として、そして休日は観光客でにぎわいを見せる。



- 公園の南側歩道 - ゆとりのある幅員を確保し、視界を遮っていた樹木を取り除き、自転車と歩行者の分離として芝生を使用しオープンな歩道空間をつくる。



全体平面図 S=1:5000 0 10 50 100



公園平面図 S=1:2500 0 5 10 20